

ア ジ ア 日 誌

2月15日 - 3月14日

東 ア ジ ア

中国、台湾、南北朝鮮、モンゴル、チベット、香港、韓国、日本

2月15日

◆韓国の経済企画院外資導入促進委員会は、初の外国資本、米のインターナショナル、コンソリデーター、鉱業会社の国内投資申請を許可。
◆韓国、アルゼンチンと外交関係樹立に関する覚え書交換。
◆モスクワで中露臨時代理大使主催の中ソ友好条約締結記念祝賀会開く。

◆池田首相、院内に武内外務次官、伊藤アジア局長、石原大蔵次官らを招き日韓交渉とビルマ賠償問題について討議。

2月17日

◆韓国、O A E C設立に関する共同宣言に参加することを決定。
◆平壤で「日韓会談」反対集会。
◆ルーマニア・朝鮮、バーター協定調印。

2月18日

◆鈴木日本貿易促進会専務理事ら、周恩来首相と会談。

2月19日

◆A I D(米国際開発局)、パキスタン向け肥料買い付けについて国際入札をすと発表、日本の参加も認む。
◆韓国外務部ハリマン次官補が来月、日韓両国を訪問すると発表。
◆金鍾泌韓国中央情報部長来日。
◆韓国政府、日本からの初の民間借款計画(韓国の和産業と日本の貿易商社、蝶理KKとの水力発電所建設に関する1000万ドルの借款計画)を承認。

2月21日

◆池田首相と金鍾泌韓国最高会議中央情報部長会談し、日韓国交正常化

の早期実現につき合意。

◆ソ連共産党代表団、ヴェトナム訪問の途中北京に立ち寄る。

◆北朝鮮新聞報道によると北朝鮮の大学数は93にのぼる。

2月22日

◆国際労働機関(I L O)、結社の自由委員会は、日本政府がI L O 87号条約の批准をいまだに行なわないことについて、「遺憾の意」を表明。
◆日ソ貿易交渉(1月8日～)、3カ年の長期協定に基づく最終年度の貿易計画を決める交渉妥結。わが国が1500万ドルの出超となるみこみ。

◆朝鮮・ギニア、貿易および文化交流協定に調印。

2月23日

◆韓国、竹島開発計画を発表。

2月24日

◆韓国政府、3月1日の「万歳事件」43周年記念日を迎えるにあたり、功労者として208人の韓国人を表彰すると発表。

2月25日

◆韓国で軍人をふくむ9人が日本への武器密輸のかどで軍事裁判にかけられる。

2月26日

◆韓国、鉱工振興会社を設立。

2月27日

◆米のハリマン氏、極東旅行で日韓改善を期待。

◆日本外務省、シンガポール中国人商業会議所の対日補償要求問題は解決済みとの見解を発表。

◆駐韓米大使館当局と韓国政府、韓国の第1次5カ年計画に関する第1回経済協力会議を開催。

◆北朝鮮貿易友好代表団のセイロン訪問終わる。

◆北朝鮮・ソ連、今年度貿易議定書調印。

3月1日

◆北朝鮮、インド領事関係を樹立。

◆中国政府貿易代表団、ランゲンン訪問。

◆韓国、インドと総領事級外交関係を樹立。

◆ワルシャワで、新任のキャボット米駐ポーランド大使と王炳南中共大使の会談が行なわれる。

3月2日

◆中露全国人民代表大会、中国人民政治協商会議を延期。

◆韓国政府、金裕沢経済企画院院長の辞任を発表。

3月3日

◆韓国の民権日報、李承晩氏の帰国希望を報道。

◆パキスタン、モンゴルを承認。

3月5日

◆周恩来総理、ラオス両派代表団長と会見。

◆中国で婦人パイロット誕生。

3月6日

◆ドラムライト駐国府米大使辞任。
◆中国貿易代表団、ビルマ外相と会見。

3月8日

◆韓国政府、新駐日公使に金在鉉(キム・チェヒョン)陸軍代将を任命。

◆香港綿紡協会、3分の1の操業短縮を行なると発表。

3月9日

◆日本とニュージーランド、ガット35条援用撤回を内容とする通商の議定書に調印。

◆中共、近く核実験か。在米中国人科学者が予測。

3月10日

◆前韓国国家再建最高会議議長張都嘆、革命裁判で無期に減刑。

◆崔徳新韓国外務部長官、日韓外相会談に出席のため来日。

◆北朝鮮の農業専門家、米作援助のためアルバニアへ。

3月12日

- ◆小坂・崔会談始まる。
- ◆中国駐在シリア新大使、陳毅副総理訪問。

3月13日

- ◆崔外相、池田首相と懇談。
- ◆米原子力潜水艦、那覇に寄港。
- ◆沈昌煥外務部長、琉球列島に対する日本の潜在主権要求を認めないと発表。
- ◆米大統領、沖縄改革案を日本政府に伝達するよう駐日大使館に指示。
- ◆北朝鮮労働者、各地で米国の南ヴェトナム侵略に抗議して集会。
- ◆北朝鮮、ネパール文化交流計画に調印。

3月14日

- ◆ボールドウズ米大統領特別顧問、来日。
- ◆ライシャワー駐日米大使、米新政策で、沖縄の日本国会参加は不適当と語る。

東南アジア

フィリピン、タイ、南、北ヴェトナム、ラオス、カンボジア、マラヤ、シンガポール、インドネシア、北ボルネオ、サラワク

2月15日

- ◆南ヴェトナム民族解放戦線、米の「軍事援助司令部」設置に抗議。
- ◆南ヴェトナムの紛争介入にかんして、米国内で政府、軍部に対する批判高まる。
- ◆北ヴェトナム、ソ連・ポーランドと貿易協定書に調印。
- ◆インドネシア共産党中央委書記、北京から帰国。

2月16日

- ◆フルシチョフ首相、インドネシア空軍参謀長と会見。
- ◆ニューギニア評議会（パプア人とオランダ人からなる諮問機関）、西ニューギニアはおそくとも1970年までに独立すべきであるとする決議を採択。
- ◆米國務省、ラオスのブンム政権に連立政権参加への圧力を強めるため2月分の援助金の振出しを留保。
- ◆プーマ殿下、王都ルアンプラバン

を訪問、国王と会見。

2月17日

- ◆インドネシアの西イリアン解放義勇軍第1陣、南セレベスに到着。
- ◆インドネシア学生団体連合、西イリアン向けオランダ機の羽田発着許可に対し、日本政府に嚴重に抗議。
- ◆ケネディ米司法長官、西イリアン紛争に「アメリカはインドネシアの側に立たない」と演説。
- ◆襲撃を受けたスラバヤ日本領事館の被害は軽少と伝えられる。
- ◆米、南ヴェトナム派遣将兵の任期を3倍に延長することを計画。

2月18日

- ◆ケネディ米司法長官、米は南ヴェトナム内戦に加わっていないと表明。
- ◆ラオス各派、連立政権樹立のための政治会談開催につき意見一致。
- ◆マライシア（マラヤ・シンガポール、英領ボルネオを統合する構想）調査委発足。

2月19日

- ◆マクナマラ米国防長官、ハワイで南ヴェトナムの米軍・外交首脳と南ヴェトナム情勢につき会談。
- ◆タイのバンチャード商工会議所会頭、サリット首相の親書を池田首相に手渡す。

2月20日

- ◆タイ当局、ラオスとの国境線に兵力増強。
- ◆カンボジアのプロンペンシアスークビル間の鉄道敷設工事始まる。
- ◆フィリピンで米国の指示によるゲリラ部隊設置計画。
- ◆インドネシア、西イリアン解放作戦本部と国防会議の合同会議開く。
- ◆インドネシア・米食糧協定発効。

2月21日

- ◆ラオス親共軍、ナムタ砲撃再開。
- ◆ラオス中立政府のプーマ首相、ピエンチャンでブンム右派政府首相、同地の政治家達と連立政権の構成について会談（～22日）。

2月23日

- ◆南ヴェトナム政府、国際監視委員会に、北ヴェトナム軍事要員が17度線沿いの非武装地帯に入っているの

はジュネーヴ協定違反だと非難、緊急に対策をたてるよう要請。

2月24日

- ◆インドネシア大統領、全土に総動員令を宣言。
- ◆ソ連製潜水艦、スラバヤ入港。
- ◆中共政府外交部は米国の南ヴェトナム干渉を非難し、南ヴェトナムからの米国の軍要員、物資の撤去を要求した声明を発表。
- ◆タイ、対ドル相場引き上げ。
- ◆タイ蔵相、エカフェ総会に関連して、アジア共同市場構想は慎重な検討が必要と述べる。
- ◆米AID、フィリピンに原子力援助費を支給すると発表。
- ◆米バージニア大学、フィリピン原子力委員会の原子力平和利用研究センター設立援助のため8万ドル支給を決定。
- ◆ラオス中立政府のプーマ首相、右派政府首脳との会談で連立政権の構成について合意に到達せず（2月21日～）。

2月25日

- ◆インドネシア放送、ソ連のインドネシア向け武器発送促進のための会談は成功であったと語る。

2月26日

- ◆インドネシア海軍司令部、予備役水兵にたいし待機態勢をとるよう命令。
- ◆インドネシア・日本友好協会、オランダ機の羽田寄港で日・伊友好関係がそこなわれないよう警告。
- ◆ケネディ米司法長官、オランダ首相らと西イリアン問題で会談。
- ◆日本外務省、コロンボ計画に基づく巡回診療団を3月中ごろから4カ月間タイに派遣すると発表。

2月27日

- ◆南ヴェトナムのゴ・ジンジュム大統領の官邸、南ヴェトナム機により爆撃さる。
- ◆南ヴェトナム国民指導相、大統領官邸襲撃事件の犯人は中尉と少尉の2人と発表。
- ◆在シンガポール中国人商業会議所、日本に第2次大戦中の虐殺者に対する補償要求。

2月28日

◆フィリピン政府、皇太子夫妻の訪問を無期延期するよう要請。

3月1日

◆新華社記者、ラオスに日本人将校がいると伝える。

◆国連筋によると西イリアン海戦のインドネシア捕虜52名を帰すと伝えらる。

◆沖繩米輸送部隊、ヴェトナムに派遣さる。

◆ラスク米国務長官、記者会見で南ヴェトナムのゲリラ戦終結のため、共産側と話し合う用意があると述べる。

3月2日

◆フェルト米太平洋軍統合司令官、タイ訪問。

◆北ヴェトナム訪問中のボノマリョフ中央委員会書記ら、ソ連共産党代表団、ホー・チミン大統領と会見。

◆カンボジア元首、南ヴェトナム襲撃飛行士の亡命を許可。

3月4日

◆米戦闘機30機、サイゴンで陸揚げ。

3月5日

◆英国防省、ワトキンソン国防相が19日から2週間にわたりクェラルンプール、シンガポールを訪問すると発表。

3月6日

◆米・タイ共同声明、軍事援助を促進すると発表。

◆南ヴェトナムで戦闘、米軍も参加。ヴェトコン100人以上死亡。

◆中国の援助で北ヴェトナムに高圧線の工事が完成。

3月7日

◆インドネシア、新輸入方式を発表。
◆米、軍事援助計画に基づきタイ空軍に28機引き渡し。

3月8日

◆ヴェトコン軍、大攻勢。雨期ひかえ政府軍との激戦に発展するのではないかとみられている。

◆日・タイ租税条約に仮署名。

◆フィリピンのアントニオ下院議員、日本商社を非難。

3月9日

◆フィリピンのバギオで極東駐在の

米外交・軍事首脳者会議開催。

◆南ヴェトナム米当局者、米飛行士も戦闘に参加していることを確認。

◆南ヴェトナム民族解放戦線、中国4団体に感謝電。

◆スカルノ・インドネシア大統領、共産党員2人を含む9人の新閣僚を任命。

◆ヴェトコン爆撃の米軍人は「教官」として参加していると、米権威筋が語る。

3月10日

◆カンボジア放送局建設援助の中国専門家帰国。

◆マカパガル・フィリピン大統領、6月頭訪米の予定と発表。

3月11日

◆バクナ・ラオス国王、米国はブンウム政府に経済的圧力をかけていると非難。

3月12日

◆フィリピン付近で、SEATO大演習始まる、沖繩の米軍が主力。

◆ドケイ・オランダ首相、オランダとインドネシア両国は、西ニューギニア（西イリアン）問題解決のための秘密会談に同意したと音明。

◆ジャカルタのソ連通商代表部筋、インドネシア物資を買い入れると述べる。

3月13日

◆ラオスのブンウム政府、外国為替取り引きを全面禁止。

3月14日

◆マカパガル・フィリピン大統領、日比友好通商航海条約は再検討が必要と述べる。

南アジア

インド、パキスタン、セイロン、
ビルマ、ネパール、ブータン

2月15日

◆ホワイトハウス、大統領夫人のインドとパキスタン訪問を確認。

◆インドで電気企業労働者スト。

2月16日

◆インド総選挙、西ベンガルで投票開始。

2月17日

◆インドでスト弾圧に警官出動。

2月21日

◆パキスタンのカセム・カン工業相、日本が1300万ドルの新借款供与に同意したと発表。

◆ビルマ輸出入銀行発足。

2月22日

◆大来経済企画庁総合計画局長を団長とするビルマ調査団帰国。

◆朝鮮・セイロン、貿易および文化交流協定に調印。

◆ソ連・セイロン、貿易協定に調印。

2月23日

◆チェスター・ボールズ米大統領外交顧問インド訪問。

◆ビルマの今年の輸出米約160万トン。

◆米平和食糧計画局長、米のインド援助の主要なものは余剰農産物と語る。

2月24日

◆22日帰国した日本のビルマ賠償問題経済調査団、ビルマは経済4カ年計画遂行にあたって、日本の援助に期待しているなどの点を指摘した報告書をまとめる。

2月26日

◆ビルマ駐日大使、早急な賠償検討予備折衝を申し入れ。

◆セイロンの総督交代。

2月27日

◆北朝鮮貿易友好代表団のセイロン訪問終わる。

◆IMF、セイロンが1125万ドルを引き出すことを承認。

2月28日

◆米、インドへ1億3690万ドルの借款供与を決定。

3月1日

◆インド総選挙の開票済み、ネール首相の率いる国民会議派は、連邦議会下院議席の半数を突破。

◆パキスタン、新憲法を発表。

◆北朝鮮、インド領事関係を樹立。

◆中国政府貿易代表団、ラングーン訪問。

◆インド外務省、軍縮会議インド代表にメノン国防相を派遣すると発

表。

◆ネパール政府、反ネパール分子の活動でインドに抗議。

3月2日

◆セイロン週刊紙、失敗したクーデターに米國が関係と暴露。

◆ビルマで無血クーデター、ネ・ウィン将軍、革命委員会を結成。

◆ビルマ陸軍部隊、ウ・ヌー首相を自宅で逮捕。

3月3日

◆ビルマ革命委員会議長ネ・ウィン将軍、憲法を停止、国会解散。

◆ビルマ外務省、革命委員会の対外政策について、独立以来の積極中立政策を忠実に今後も履行すると声明。

◆ビルマ革命委員会で、通商・産業部門を担当するオン・ジーン准将、記者会見で「対日賠償増額交渉については、解決を楽観」と語る。

3月5日

◆ビルマ革命委員会、首相にネ・ウィン議長が任命されたと発表。政府機関担当も決まる。

3月6日

◆米、英、ビルマのネ・ウィン新政権を承認。

◆日本・インド両國、インド農業センター開設(4カ所に稲作模範農場)に関する協定に今月中には調印のみこみ。

◆中国貿易代表團、ビルマ外相と会見。

◆インド、アラブ連合、中国政府、ビルマ新政権を承認。

3月7日

◆ソ連、ネ・ウィン首相のビルマ新政府を承認。

3月8日

◆ビルマ革命委、輸入の国営を2年間停止と決定。

◆インド政府、ゴア鉄鉱石の最低価格は従来どおりにとどめると発表。ビルマ民族統一戦線、新政府政策を支持。

3月9日

◆北ヴェトナム、ビルマ新政権を承認。

◆ビルマ革命政権オン・ジーン准将、

1年以内に反徒一掃、産業国有化はせぬと声明。

3月10日

◆北朝鮮、ビルマ新政府を承認。

◆セイロンの最後の英軍基地撤収。

3月11日

◆インド政府、中共政府からのチベット協定の期限延長、国境紛争解決の申し入れを慎重に検討。国境交渉再開の動き。

3月13日

◆北朝鮮、ネパール文化交流計画に調印。

3月14日

◆インド下院、旧ポルトガル領植民地ゴア、ダマン、ジウの編入法案を可決。

西南アジア

アフガニスタン、イラン、イラク、サウジアラビア、レバノン、ヨルダン、イスラエル、アラブ連合、バーレン、クエート、カタール

2月18日

◆シリア政府、英、仏、ベルギー資産の接収を解除。

3月12日

◆スセイバ・ヨルダン外相、日本、ヨルダン両國の間に大使交換の交渉が進められていると発表。

アフリカ

2月15日

◆カタンガ州議会はツォンベ・カタンガ州大統領をアドゥラ・コンゴ中央政府が昨年締結したキトナ協定を批准。

◆米、ツォンベ大統領の入國を拒否。

◆A・A22カ國、ルアンダ・ウルンジ独立決議案を國連に提出。

◆ソマリア、国営電力会社自力経営に成功。

◆ケニヤック氏、ケニヤの完全独立時の確定を要求。

2月16日

◆英領ギアナでジャガン首相の新予算案に反対するストライキが広がり、クレイ総督は戒厳令を宣言。英軍2個中隊、政府援助に向かう。

◆アルジェリアのフランス軍各部隊から総計約2万の將兵がフランス本土引き揚げを開始。

◆英領ギアナのグノー総督、首都に戒厳令を宣言。

2月17日

◆コンゴのユニオン・ミニエール鉱山会社操業を再開。

2月18日

◆アルジェリアに基地をもつフランス戦闘機2機がモロッコ国境都市ウジダにあるFLNの基地爆撃。パリではOASの破壊分子による行動とみている。

2月20日

◆アルジェリア臨時政府、全閣僚を集めて閣議を開きアルジェリア革命国民評議会(CNRA)の最終的承認を求める。

◆コンゴ郵便電信労働者、賃上げスト。

2月21日

◆カタンガ政府代表、キトナ協定を事実上拒否した覚え書を発表。

◆国連總會信託統治委員会、アジア・アフリカ30カ國共同提案のルアンダウルンジ独立決議案を可決。

2月22日

◆アルジェリア停戦協定草案を審議するため、アルジェリア革命議会議会(CNRA)トリポリで開かる。会議にはベンヘッダ首相ら、アルジェリア臨時政府(GPRA)閣僚も出席。◆アルジェリア駐留のフランス軍、和平協定打ちこわしをぬらう欧州人入植者と回教徒の暴力行為を阻止するため全土の主要都市に集結。

2月23日

◆エンクルマ・ガーナ大統領、駐日ガーナ大使を通して、対日ガット35条援用撤回の旨の覚え書を小坂外相に手交。

2月24日

◆アルジェの欧州人居住地区バブエルウェドで、秘密軍事組織(OAS)のテロにより回教徒20人が死亡。他

の地区でも41回の襲撃が行われ、40人死亡、11人が負傷。

◇国連アフリカ経済委員会(ECA)、ポルトガル、スペインを除名、英、仏、ベルギーを準加盟国に格下げする決議案を採択、国連経社理へ勧告。
◇アルジェの欧州人居住地区で回教徒に対する騒ぎから欧州人、回教徒、計26人が殺される。

2月25日

◇OASはアルジェのフランス機動警備隊兵舎にバズーカ砲を撃込み、少なくとも10人の死傷者を出す。

2月26日

◇アルジェリア革命議会、フランス・アルジェリア停戦協定の草案を審議、パリ側は審議結果を自信をもって待ち望んでいる。

2月27日

◇アルジェリア革命評議会、討議を終了。
◇ソ連・ギニア貿易協定書調印。

3月3日

◇ブルガリア・ギニア貿易協定調印。
◇モロッコ、国営ラジオ・テレビ局放送開始。

◇ザンジバル首席閣僚、年内にザンジバルの独立を要求。

◇アルジェリア全土の暴行事件の結果、36名死亡、75名が負傷。

3月6日

◇ガーナ独立5周年記念式典挙行。

3月9日

◇ローデシア・ニアサランド連邦議会解散、ウェレンスキー内閣も総辞職。連邦維持を住民にはかるため総選挙の予定。

そ の 他

2月15日

◇キューバ、米の圧力によりOASから除名さる。

◇アルゼンチンで、キューバ断交反対デモ。

◇マクナマラ米国防長官、英国のアジア駐留支持を表明。

◇マニラで開かれている第1回アジア新聞会議に参加した10カ国代表に

より「アジア新聞通信機構」発足。

2月16日

◇ハーグで、極右青年団体、米大使館にデモ。米が西イリアンでインドネシア側に加担しているというもの。

2月17日

◇ウルグァイでキューバ支持集会。
◇ブラジル外相、対キューバ断交はしないと表明。

2月18日

◇ハノイで5万人の米軍事援助反対デモ。

2月22日

◇イノニョ連立政権に対するトルコ軍内部の不満分子、アンカラで行動を起こす。スナイ・トルコ軍参謀総長はじめ空軍参謀本部、海軍、他の陸軍部隊は政府を支持。

◇トルコ陸軍に近い筋の発表によれば、過去数日間に59人の士官をクーデターを企てたかどで逮捕。

◇ガット理事会、ジュネーブで開かる。

2月23日

◇トルコ軍部反乱、16時間で制圧。

◇ブラジル陸軍、グラール政権支持の集会。

◇アジア・アフリカ諸国を歴訪中のホールズ米移動大使、ニューデリーでネール・インド首相と会談、カシミール、南ヴェトナム問題等、広範囲に検討されたもよう。

◇ロバート・ケネディ米司法長官、今度の日本訪問に関する詳細な報告書を大統領に提出、沖縄問題、日本の綿製品賦課金問題について日米間への影響の大きさを指摘。

2月24日

◇米政府当局、「米国は北大西洋条約機構諸国に対し武器戦略物資のキューバ向け輸出を禁止するよう非公式に要請したが日本にはこのような具体的要請はしていない」と言明。

2月27日

◇国連安保理、キューバの対米非難決議案採決を否決。

3月1日

◇ホワイトハウス、米台湾司令官交

代を発表。5月に退官するストーム中將の後任にメルソン中將を指名。

3月5日

◇英紙デーリー・エクスプレス、米国の核実験に沖縄を使えと提案。

◇エカフェ会議、ビルマは不参加。

◇ソ連共産党、22回大会後初の中央委員会総会を開く。

3月6日

◇エカフェ東京総会開く。加盟、準加盟29カ国代表が参加。

3月8日

◇ハリマン米國務次官補、アジア地区米公館長会議に出席のため、マニラに到着。

◇ジャクリーン米大統領夫人、インド、パキスタン両国を訪問のため出発。

3月9日

◇米、2年目の「平和部隊」大増員を計画。

3月10日

◇エカフェ総会、アジア経済開発研究所設立を決議。

◇エカフェ総会第5日、日本代表、長期開発特別委設置を提案。

◇モスクワ放送、米国は南ヴェトナムで「宣戦布告なき戦争」を行なっているとは非難。

◇米、キューバとの郵便為替業務を停止。

3月11日

◇米国自由人権協会、沖縄の自治拡大を要請。

3月12日

◇米、沖縄新政策を議会に提出。まず経済建て直し、風紀問題の悪化も憂慮。

◇ブラジルで電報会社発足。

◇ベネズエラの鉱山労働者5000人スト。

3月13日

◇米下院外交委員会、平和部隊費倍増を承認。

3月14日

◇A・A連帯機構、米国の南ヴェトナム侵略中止を要求。

◇オランダ、米企業と西イリアン鉱山開発協定に調印。